

初代松江市長・福岡世徳文書（四）

福岡世徳文書研究会

（竹永三男・大國由美子・小林奈緒子・

沼本龍・本井優太郎）

〔解説〕

今回翻刻する史料は、初代松江市長・福岡世徳（在任期間・一八八九年～一九一一年）が、出張・公務従事の際に携帯し、旅程・旅費・出張先での業務内容や出張途次の見聞を詳細に記録した「公務手帳」の第三冊である（一二冊が伝存）。県庁が所在する地方都市の市長の市政上の活動内容を具体的に確認することができる史料として、この「公務手帳」は高い史料的价值をもつ。これを今回翻刻した第三冊についてみれば、本冊に記載されている福岡市長の旅は、次表のとおりであって、日清戦争・日露戦争に際して大本営のある広島、歩兵第二聯隊の置かれた浜田への出張内容が記録されており、両度の戦争への地方都市およびその市長の直接の関わりを示している。とくに、三四ページ下段の「松江保盛策ノ内」と題する『松江日報』一九〇三年（明治三六）一月八日付記事の抜き書きは、福岡市長が、①鉄道（山陰本線）の延伸、②松江の外港である馬潟港の浚渫、③陸軍聯隊の誘致という相互に関連した施策を主要内容とする松江市振興策の策定に本腰を入れて取り組む直接的契機となったと考えられるものであり、松江市政史上も重要な意味をもつ記述である。

この「公務手帳」を含む「福岡世徳文書」は、松江市北堀町の福岡勝重氏の所蔵に係るもので、その一部は、次のように翻刻しており、第一回目には簡単な解題を付しているので参照されたい。

竹永三男・島根大学法文学部近現代史ゼミナール

「初代松江市長・福岡世徳文書（一）」「同（二）」「同（三）」

『山陰地域研究 伝統文化』第六号、第七号、第一〇号、

一九九〇年、九一年、九四年）

また、福岡世徳の市長としての事績については、竹永が別に論じているので、併せて参照されたい。

竹永三男「旅をする市長―初代松江市長、福岡世徳の旅」

井ヶ田良治ほか編『歴史の道・再発見』第五巻、フォーラム

A、一九九四年

手帳の記載は、文字とおりの走り書きもあつて読みづらい箇所がある。翻刻に際しては、研究会同人の大國由美子（法文学部歴史学教室卒業）が解読したものを、研究会の場で検討し、当面の確定版を作成した。

福岡世徳「公務手帳」第3冊所収の市長の旅

旅行年	旅行期間	行先	目的
1893（明治26）年	10月3日～10月11日	岡山市	鉄道敷設運動
1894（明治27）年	9月19日～9月25日	広島市	天機伺い
1895（明治28）年	10月12日～10月19日	広島市	招魂祭参列
1904（明治37）年	9月26日～10月8日	広島市	松江出身傷病将兵慰問
1905（明治38）年	10月3日～10月13日	広島市	松江出身傷病将兵慰問
	11月26日～12月4日	浜田町	帰還軍隊歓迎
1906（明治39）年	2月7日～2月25日	静岡県沼津町	松平直亮伯爵病気見舞
	2月26日～3月6日	浜田町	招魂祭参列

〔凡例〕

- 一 漢字は原文どおりとするが、異体字は固有名詞を除き正字とする。
- 二 合体字はカタカナ書きとする。
- 三 原文にない句読点は付さない。
- 四 不明文字・判読不能文字は、字数に従い、□□、□□とした。
- 五 抹消文字は二重抹消線で示し、訂正文字を原文に従い左右に記す。
- 六 文字サイズは同一とし、割注のみ傍線を付す。
- 七 個人情報として配慮すべきと判断した人名は、姓を**で表記し、同一姓は⊗⊗で区別する。
- 八 〔解説〕別表に掲げた各回の出張を明示するため、翻刻者によって当該箇所「『』」を付した小見出しを設けた。

〔明治二十六～三十九年 手帳 第三冊〕

- ・表紙・裏表紙帳はずれ
- ・タテ 六・五cm
- ・ヨコ 一〇・六cm
- ・本文 一三六ページ

《一八九三年・鉄道敷設運動のため岡山市に出張》

明治廿六年十月岡山行

十月三日曇天

午后零時四十分松江發同二時五十分米子ニ着同四時同所發同九時五十分
根雨ニ着油屋ニ投ス

四日雨

午前八時發午后二時二十分新庄ニ着昼飯六時勝山ニ着岸屋ニ投ス

五日曇

午前七時勝山ヲ發ス午後二時弓削ニ着昼飯三時半同所發九時岡山ニ着自由舎ニ投上ノ町

六日晴

午前十時関西會事務所ヲ訪ヒ引懸ケ岡山製糸場ニ至ル談偶鉄道ノ事ニ及フ或者云フ倉敷線ヲ私設セント盡力セシモ利益無キ見込ニ付運動ヲ廢セリト零時五十分帰宿ス

午後七時片岡氏ノ旅寓ヲ訪フ立石岐同寓ニ在リ折角余等ノ寓ヲ訪ハント出懸ケ居リシヲ以テ之ヲ留メ片岡氏ト同食ニ會シ鉄道ノ事ヲ談ス

立石意見ノ要

陰陽聯絡比較線中倉敷線并中央線共五哩余ノアプト式アルカ為メニ鐵道會議ニ於テハ姫鳥線ニ決セシモ其後中央線ヲ實測セシニ勝山ヨリ某所ニ通スル時^半一哩余ノ隧道ヲ設クレハアプト式ヲ用ユル事無クシテ倉吉ヲ經米子ニ達スルヲ得ルニ付通信省并仙石技手ニ之ヲ通セリ私設ノ事ニ付テハ倉敷線ハ官設ニテ見込無キ事ニ成リシニ付私設ニセント盡力スル者アレトモ工費非常ニ多ク畢竟利益ノ見込無シ又和氣線ニ付テモ法橋善作等ノ私設論アレトモ是亦利益ノ程寬束無シ金融緩慢ナリトテ私設論盛ンナレトモ東京杯ノ有様ヨリスルモ左程金力餘テ居ル様ニモ見受ケラレス且又私設論ハ全國十數ヶ所ニ起リ居ルカ之レカ一時ニ資金ヲ募集スルトキハ所詮現今ノ如ク金融緩慢ニテ利安ノ金ハ有之間敷畢竟私設論ハ一時ノ流行ニテ行ハレ間敷トノ事米子間延長ノ事ニ付テハ瀛船ノ便アリトノ難問アリタリ

延長ト云フ事ハ止メテ第二期山陰縦貫線ノ内米松間ヲ一期ニ繰上ケノ事ニスル方可然ト注意セリ第五議會ニハ第二期ヨリ第一期ニ繰上ケノ事ヲ提出スル者多カラン是等ト提携スルトキハ或ハ行ハレ可申ト思フ土臺ト

ナリテ力ヲ入ルヘシトノ事又比較線ノ事ニ付安來迄來リシ事アリト

片岡氏ハ与篤書面取調相當力ヲ盡スヘシトノ事ナリ

午後九時帰宿松江ニ右ノ事情ヲ報知ス

七日晴天 鳥取大島鉄太郎來ル

午前香川縣ノ人青木茂揃久保財三郎ヲ訪フ

久保ヨリ三崎龜之助エ添書ス

又加藤平四郎ヲ訪ヒ鐵道ヲ談ス

午後兵庫縣代議士石田貫之助改野耕三佐野助作高瀬藤王郎ヲみよしのニ訪ヒ鐵道ノ事ヲ談ス

八日晴

午前九時發起人會ノ為メ公園中迎養亭ニ至ル廣島代議士前田莞尔小田貫

一并兵庫高瀬藤次郎在ルヲ以テ鐵道事件ヲ談ス午後一時□公園ノ牛肉店

ニテ昼飯ヲ喫シ二時會場ニ至ル岡精道アリ又河野代議士來ル五時退場引懸ケ新庄市長ヲ訪フ不在六時帰宿竹内富三郎山口縣人某來ル

午後七時三十分河野代議士ヲ常盤樓ニ訪ヒ引懸ケ小田前田ノ二代議士ヲ大黒屋ニ訪ヒ共ニ鐵道ノ事ヲ談シ九時帰宿ス

九日晴

午前六時岡山ヲ發シ十時福渡ニ着小憩同所發十一時五十分弓削ニ着同所

昼飯零時二十分同所發午後四時十分久米北条郡大井西邨ニ着小憩四時廿五分同所發午後六時十五分勝山ニ着岸屋ニ投ス喫飯後市中ヲ散歩ス

備伯作鐵道期成會事務所ノ懸札ヲ見ル

十日半晴

午前七時半勝山ヲ發ス十時美甘ニ着小憩十時^十廿分發零時廿分峠ニ達ス小

憩直チニ發ス二時根雨ニ着ス昼飯二時廿分根雨ヲ發ス四時四十分溝口ニ達ス小憩五時十五分發七時半米子ニ着米五二投ス

十一日雨

午前九時半米子發船十一時三十分帰宅

園山へ注意

一 渡部芳造若原觀瑞ヲ説ク事

一 板垣翁ヲ説ク事

岡山縣

・ 加藤平四郎

・ 立石岐

廣島縣

・ 前田莞尔

・ 小田貫一

兵庫縣

・ 石田貫之助

・ 改野耕造

・ 佐野助作

・ 高瀬藤次郎

・ 岡精道

高知縣

・ 片岡健吉

福島縣

・ 河野廣中

河野廣中

大小長短得其中頭稍開而仰而緊張力尤強

《一八九三年・松江市水害關係記事等》

第三銀行

1.08
28
1.36

25
65
315
20
6.5
265
140
125

2.5
7
17.5
2.5
12.5
5
7.5

1.5
1.3
5
33
375.02
89.09
35.20
500

十月十六日朝
池淵申出有来

一第三銀行

百俵

一完道小幡

七百俵

一為續方

四百俵

一境商人

五百俵辻

1	70
	<u>50</u>
8.	50
5	
<u>13.</u>	50

水見舞ノ為メ

野口加納ヨリ使者来ル

500
<u>265</u>
335

355
<u>260</u>
95

5.00
<u>165</u>
355
335
<u>260</u>
75

一清光院
一法眼寺

千餘人

一高等学校

三百人

一母衣町学校

六十人

一大神宮

六十人

役所

一百六十人

和田見岡新太郎分

境 米倉某

咲

右者ヨリ

現米三百表

三

仮代價 圓五十錢ノ内渡ヲ為モ過キ十四日ノ大坂出雲米相場二三

圓増ヲ以テ精算スル事

□野榮平ヨリ

八十表

此代價表二付式圓八十錢ノ三割増

十六日夕賄迄

市役所 貳百七十

清光院 九百

天倫寺 百五十

法眼寺 三百

高等 四百六十

母衣尋常 六十五

内中原 四十

大神宮 六十

白濁 三百

洞光寺 八百五十

雑賀 五百

大神宮 廿

賣豆紀 十五

通□所

廿四人

被救助人

八百名十六日

茶町

若松寛太郎

同々十俵宛

仙田徳太郎

拾圓五十錢

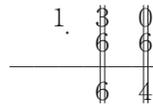
廿表 第三銀行

消防夫驅付夫共日給請求之事

白濁 松宮橋西上り口

新土手筋道路

濱松 高崎 仙臺 米子 直江津 長崎 津 静岡 四日市 熊本
熊本 尾道 廣島



中原 中康火防器械置場倒□

取引所設立許可

、濱松、高崎 仙臺、米子、直江津、長崎、津、静岡 四

日市、熊本

、尾ノ道、廣島 岡山、小樽、敦賀、山形 直江津、大垣、和歌山

松江日報千百十四号 廿六年十一月八日

松江保盛策ノ内

彼ノ三年間八百六十七戸ノ減少ノ内十分ノ七八即チ轉住者ニシテ其内十分ノ四八伯州米子ニ轉シ十分ノ二八安来ニ轉シタル事ヲ稽查云々

吾人之ヲ老商ニ聞ク上方地方ヨリ當地方ニ入荷スル商品ハ往年ハ松江ニ
八分米子ニ二分ノ比ナリシモ今ヤ之ニ反シ松江ニ四分米子ニ六分ノ入荷
トナレリ云々

田部長右衛門

宿所

麴町区下二番町廿六番地土江半三郎方

《一八九四年・日清戦争に際し広島出張》

廿七年九月廣島行

一金式拾八圓

沓圓四十錢 帽

沓圓六十錢 □□

鳥屋町九番地津森方

岡本

大手町二丁目五十九番地

藝備日報

赤名ヨリ三次迄 八里

三次ヨリ甲立迄 四里

甲立ヨリ吉田迄 二里

吉田ヨリ上根マテ 四里

上根ヨリ可部マテ 三里

可部ヨリ廣島マテ 四里

八百屋町六番屋敷

八木傳七

十九日發之

人民總代
天機伺ニ付各村長議員等の名を以て天機伺として出頭するものは内事課

長の旅宿にて受付け与なしよし又縣會議員等も同様に心得べしとなり

廿七年九月廣島行記事

九月十九日午前七時四十七分松江發船九時完道ニ着零時十分三刀屋ニ着

内田□右衛門方テ憩昼飯午后一時三刀屋發同十時頓原着弘岡方ニ投宿

廿日

午前七時頓原發十一時十分布野ニ達シ日高方ニ小憩昼飯正午布野ヲ發ス

四時三十分甲立ニ着宿泊

廿一日晴

午前六時三十分^甲立發零時十分可部ニ着昼飯午后一時可部ヲ發ス二時祇

園ニ着加藤方ニ投宿

廿二日

午前六時三十分祇園發七時半廣島津森方へ八時過山本ト共ニ縣廳ニ出頭

門鑑ヲ請取シ歸路市役所ニ立寄伴市長ト暫時寄話一旦宿ニ歸リ十時大本

營ニ出頭帰宿雨水省五郎来ル昼飯後縣廳ニ門鑑返却□□ニ往キ若山二面

會シテ二時帰宿服ヲ替市街散步三時過帰宿

廿三日

午前五時祇園發十一時二十分吉田着昼飯十二時吉田發午后六時布野ニ着

日高方ニ投宿

廿四日晴

午前五時布野發十時四十分頓原ニ着片岡ニテ昼飯十一時四十分發午后八

時廿分完道ニ着田中廣兵衛方へ投宿

廿五日

午前九時卅三分完道發船同十時五十分帰着

一山村ニ市役所修繕相談之事

一高等学校女生□成方之事

一書記給料取調之事

一棧橋之事

一市岡土地買上之件

外

寺町 熊谷司

少

廣島市東本川

問屋 藤川直藏

研屋町柴田惣兵衛方

香西久次

八百屋町六番地

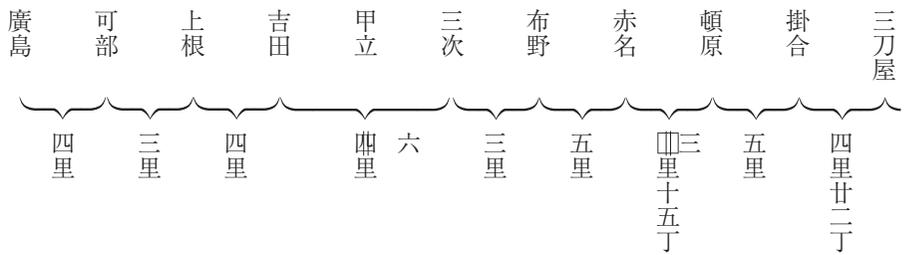
八木傳七

サルカク町和田五助方

佐田千

完道

四里



《一八九五年・日清戦争終結後の広島出張》

廿八年十月十二日廣島行記事

十二日七時松江發三刀屋内田方昼飯頓原片岡八来方宿泊

十三日

七時半頓原發三次香川方中飯吉田いろはや宿

十四日

七時吉田發二時廣島着四東本川藤川直藏方ニ投ス四時ヨリ奧師團長大嶋旅團長上田參謀長武田廿一聯隊長柴田野戰砲兵第五聯隊長ヲ歴訪シ黄昏
歸宿

十五日半晴

午前九時東練兵場ニ於テ招魂祭執行

入口大一間弔慰忠勤ノ大額アリ

練兵場東北隅ニ西向ニ祭壇ヲ設ケ左側ニ師團長旅團長以下諸將校參列

右側ニ地方官裁判官參列祭主祭文朗讀鍋島廣島縣知事祭文朗讀畢テ一

同拜礼式畢ル

北ノ山ニ仮壘ヲ設ケ牡丹臺真景トアリ是ノ設ノ壘ニシテ分取ノ旌旗ヲ建

ツ東ノ山上ニ大砲ヲ据工是レ日本軍ナリ互ニ大砲數十發ヲ發ス山ノ半腹

ニ仮大石碑アリ

嗚呼殉国忠志之^士碑

人日本兵ヲ牛裂キニスル人形同鼻クリヲ透ス人形等アリ其右ニ日本病院

ニ於テ負傷者ヲ治療スル所アリ其他種々ノ飾付アリ

午前十一時ヨリ騎兵第五大隊營所ニ於テ立食饗應アリ大島旅團長ノ挨拶

アリ了テ饒津神社ニ參詣シテ二時宿所ニ帰ル宴会席凡ソ百五十名

十六日晴

午前十時半天野樞市ヲ訪ヒ十一時過帰宿午后二時歡迎所ニ至ル同四時半

開宴將校会スル者四百余名其他六百余上計千數十名一同食卓ニ就クヤ鍋

島知事祝文朗讀畢テ奧師團長挨拶アリ鍋島知事大元帥陛下萬歲并陸軍萬

歲ヲ三唱一同之ニ和ス宴会海軍樂隊ノ奏樂烟火打揚藝妓手踊狂言等アリ

夜ニ入り仕掛烟火アリ八時過退散帰宿ス

十七日晴

午前九時ヨリ奧師團長訪問面会大島旅團長訪問名刺ヲ通シ置ク武田廿一

聯隊長訪問面会^{十一}時帰宿引懸ケ市役所ニ至リ十一時過帰宿正午前御調

世羅郡長訪問今晚六時ヨリ春和園ニ於テ宴会ノ案内アリ午后一時過香西

文治ヲ訪問シ勸商場ヲ巡見シ三時前帰宿ス春和園ノ宴会廢スル事トナリ

四時五十分廣島發途ス七時十五分可部笹木方ニ着一泊

十八日晴黄昏過雨

午前六時半可部發八時半上根ニ着休憩暫時ニシテ同所發十時半吉田ニ着

車夫喫飯十時四十五分同所發午后二時三次へ着香川方ニテ昼飯二時四十

分同所發七時五十分赤名ニ着和田方ニ投宿

十九日晴

一午前五時四十分赤名發十時四十五分掛合着岩田金藏方ニテ昼飯十一時

廿分同所發午後三時三十分完道着暫時ニシテ第二蓬萊丸ニ乗船四時出帆

五時十分帰松

十八号

七百人

三十七年十月六日

一金三圓

一金壹圓五十錢

一三圓五十錢

一金五錢

以上廣島^(在記カ)滞マテ入費

途^中車押^シ

一三圓五十錢廣島車賃

一金四拾円五拾八錢旅費

外二

拾圓 豫備

拂

一金三円五拾錢

帽

一金拾錢

半紙五帖

一金拾六錢五り

郵券並はかき

一金五錢

状袋紙

小計金三円八十一錢五り

一金貳拾三錢五り

舟賃棧橋賃共

一金壹円

船中 完道マテ車夫へ

一金拾錢

三刀屋茶代

一金貳拾錢

掛合昼飯

一金貳錢

同所茶代

一金貳拾錢

途中小休茶代

一金五十錢

頓原宿料

一金三十錢

同茶代

一金三錢

途中茶代

一金拾八錢

布野昼飯

一金五錢

同茶代

一金三錢

途中茶代

一金七十錢

吉田宿料

一金五十錢

同茶代

一金十錢

同下女へ

一金五錢

途中茶代

一金貳拾錢

可部昼飯

一金拾錢

同茶代

一金四圓

車賃渡

八圓四十三錢五り

小計十木圍八十七錢

合計金十二圓二十五錢

廿十圓六十八錢五り

《一九〇四年・日露戦争に際し広島出張》

廿九日

一金拾錢

車賃

一金拾八錢

郵券六枚

廿九日

一金貳拾錢

按摩

一日

一金十五錢

通船切符

二日

一金五圓

車夫二渡ス

同

一金拾八錢

堀川町往復車賃

一金貳円六十四錢

ちぐさ二反

一金四拾貳錢

紐

一七錢

手帳銚□小繩

一七錢五厘

はかき五枚

五日

一金貳拾錢

□□□□迄往復車賃

六日

一金三十二錢

字品昼飯

一金七圓貳拾五錢

八泊昼共宿料

一金壹圓六十錢

來客饗應

以下前五頁二續ク

明治三十七年九月廿六日出發廣島出張

廿六日晴

月曜

午前六時發七時廿五日^マ穴道ニ着船九時三十五分三刀屋着小憩十時三刀屋發零時十五分掛合着岩田方ニテ昼飯

途上所感

一嫁島石燈籠太キ割合ニ餘程高サ不足ノ感アリ

一穴道ヨリ以南沿道稻作善実臥シタル稲ヲ散見セシモ只屈シタルマテニ

テ莖ノ折レタルモノナシ大原郡ハ正條植ノ行ハレ所多ク一方丈ケハ概

シテ正條ノ様見受ケリ飯石郡植方緻密殊ニ穂皆屈垂レテ見分チ難キモ

植方乱雜ナル如ク見受ケラル

一三刀屋ヨリ掛合迄ノ間ニ在ル里程標式里或ハ参里ト記載セル式[○]参[○]ノ字

何者ノ悪戯カ皆削リアリテ字体分明ナラス

福庭弥市氏訪ハル午後一時掛合發四時四十分頓原ニ着喬松館片岡ニ投宿

同廿七日晴 火曜

午前六時五十分頓原ヲ發ス九時半赤名峠ニ着小憩十時十分發十一時三十五分布野ニ着日高半次郎方ニテ昼飯零時十分發六時四十五分吉田へ

着いろはニ投宿岩本磯助同宿訪ハル

同廿八日晴 水曜

午前七時發十時五十分可部ニ着昼飯高木音吉南詰十一時廿分發一時三十分廣島着猫屋町高橋慶之進方ニ投宿午后三時出寓岡小三郎ヲ第一分院ニ訪フ書記岸本伊勢吉氏面會岡氏ハ午前丈ケニテ退院ストノ事依テ岩谷医員ニ面會ノ後岡氏ヲ其旅館中野屋ニ訪ヒ明日各病院慰問ノ事ヲ打合セ引懸ケ米因篤志看護婦ヲ訪ヒ不在福田騎兵少尉ヲ訪問シ不在五時半帰宿直ニ寄贈品ノ事ニ付高橋助役へ書状ヲ發ス

同廿九日晴 木曜

午前八時ヨリ岡氏ノ案内ニテ豫備病院ヲ慰問各室ニ案内ヲ受ク當院ニハ目下

將官一名 佐官四名 其他數名 横濱遠所幸吉アリ

本院ノ慰問ヲ終へ第二分院ヲ慰問ス田村手計ニ邂逅ス先月末當地ニ來

リ第二分詰ト為ルト同主計ノ幹旋ニテ大ニ都合ヲ得タリ同院ハ^{□□□□}号室

アリ目下患者六百名許アリト尤本日百七十餘名収容ノ筈ナリトノ事

田村氏ノ言ニ

後備聯隊長ハ

少佐曾我鏡一郎

同聯隊ノ宿舍ハ

京橋町

田村主計ノ宿所ハ

鉄砲屋町宮崎方

本院補

院長ニ面會院長ノ言ニ惣患者九千乃至一万ナリト

病兵中挨拶ヲ為ス者アリ之ヲ視シニ知りタル顔ナレトモ姓名ヲ遺忘ス

之ヲ問フ横濱遠所幸吉ナリト遼陽ニ於テ負傷セシトノ事輕症トノ事顔色モ至テ宜シ

午前十一時帰宿不在中福田堅蔵氏訪ハル

午後一時第一分院ヲ慰問シ二時半慰問ヲ終ヘ師團司令部訪問副官ニ面會

砲兵第五第一分院ハ第三十二号室マテアレトモ目下三十一号室マテ患者

ヲ収容シ三十二号室ハ教育室ト為リ居レリ現在収容患者千八百餘人ナリ

ト云フ

師團司令部ヲ訪ヒ副官ニ面會ス

砲兵第五聯補充大隊ニ園山少尉ヲ訪フ左ノ談アリ

今回ノ戦争ハ長引ク覚悟ニテ兵士ノ服ノ如キモ舶来毛織ト羅紗ハ出征

軍人ニノミ給与シ内地ニ勤務スル者ニハ綿ネール白木綿ヲ使用ノ見込

ニ付松江ニ於テ織テハ如何猶見本ヲ送ルトノ事ナリシナリ

午後四時帰宿ス○夜ニ入り六十六寄宿舎ヲ訪問シ又席谷萬□生ヲ訪問シ

八時半帰宿ス

同廿日半晴 金曜

早朝福田騎兵少尉杵原看護婦和田吉人氏訪ハル八時過井原知事ヲ吉川ニ

訪フ不在隨行者松浦藤田ニ縣属ニ面會ス○第五分院ヲ慰問ス慰問録ニ記

載シ置ケハ各患者ニハ通知スヘキト各室訪問ハ断ルトノ事ニ有之同分ニ

ハ山根氏格之助元聯隊区司令部書記タリシ

梅之助

看護長トシテ在勤萬事便利ヲ与ヘラル吉野席之助ニ面會之処同氏扱ヒ□

□タルモ輕地療養所ニ轉退不在トノ事猶同院ハ廿七号室マテアリテ収容

患者式千人ナリト云フ引懸ケ饒津神社ニ參詣十一時半帰宿ス

午後一時伴市長ヲ市役所ニ訪フ談話左ノ如シ

一廿一聯隊ノ出發ハ三日ナリ

一經木真田製造ハ未調査ナリ

一水道費ハ僅ニ昨年ヨリ収支償フコト、ナレリ是レ水ノ使用者ノ増シタルノミニアラス専ラ使用料ヲ増シタルニ依レリト

第三分院ヲ慰問ス慰問録ニ記載スルノミニ止ム園山秀之□入院ノ有無ヲ

問フ第一分院ニ轉セリト同院ハ十七号マテアリテ患者ハ六百四十餘名ナ

リト

後備第廿一聯長少佐曾我鏡一郎同第二大隊長少佐福田半弥第一大隊長松

村範之諸氏ヲ各本部ニ訪フ皆面會ス

松江市出身左ノ諸氏ニ逢フ

三谷少尉

加藤愛之助

平野茂

松木正太郎 片寄

森木寛一郎 錦織礼一

新田嘉兵衛 馬庭長之助

其他二三名

三時半帰宿四時廿分岩谷医員大手町六丁目亀井医員井原知事ヲ訪ヒ五時

半帰宿ス五時五十分岡崎支店員河井賢蔵来リ紙ノ事ヲ話サル○夜ニ入り

六十六救護班寄宿舎ヲ訪問ス岩谷亀井両医員モ在リ看護婦ニ面會前夜ニ

全シ八時過帰宿ス

十月一日曇後雨 土曜

午前七時山本能義郡長来着八時ヨリ寺町患者ヲ慰問ス大概各分院ニ轉送

濟岡崎氏ヲ訪ヒ第四分院ヲ慰問ス事務員ニ面會

病室ハ十八号

患者ハ七百餘人

市役所ニ出テ三日軍隊出發ノ時刻ヲ問フ未ダ不明知レ次第通知ヲ受クル
答頼ミ置ク午前九時過帰宿ス

午后一時岡小三郎ヲ第一分院ニ訪ヒ松江人ノ患者取調ヲ依頼シ置第六分
院ヲ慰問シ松江人ノ居否ヲ取調ヘ貰ヒタル所

90小村龜太郎 23松下真市

園山秀之助 足立席之助

本田竹次郎 講夫宇一郎

平本乙市 安藤勢之助

ノ八名ハ名簿ニ記載シアレトモ小村松下ノ外ハ室ノ号數不明ナリトノ事
依テ廿三室ニ案内ヲ受松下真市ヲ訪ハントセシ第五師團ノ兵ハ昨日悉皆
第一分院ニ轉送セシ旨医師ヨリ話ニ付病室ヲ一週ス當院ハ

七十号室アリ然レトモ目下ハ三十四号室マテ患者ヲ收容シアリ患者ノ
數ハ千五百名餘アリトノ事

字品ニ往キ博愛丸ヲ訪フ医長岩井禎三ノ船中ノ案内ヲ受ケテ船内ヲ觀ル
五時半帰宿不在中松江ヨリ電報到達ス夜二入り岡小三郎來訪ス

同日雨 日曜

午前八時前虎谷常太郎氏訪ハル八時半堀書記官ヲ溝口旅館ヘ訪フ第一分
院ニ於テ渡部太郎園山秀之助両氏ニ面會渡部ハ創口殆_{下脱}全癒腎部園山ハ
眼病ナリ旅團司令部ヲ訪ヒ副官ニ面會十時半帰宿ス

寄贈品ノ事ヲ岡ニ問フニ本院ヨリ第一分院ヘ分配ノ内ニテ千人ニ配
賦スヘキモノカ最多數ナリ

十一時半舟木正太郎來訪干飯ヲ饗ス零時五十分去ル二時馬庭長之助來訪
暫時ニシテ去ル二時半後備第五旅團長少將_兼旅團本部ニ訪ヒ直チニ帰宿
ス三時上田常太郎來訪三時十五分去ル夜二入り岡崎捨太郎氏訪ハル 粟
飯原少將

同三日半晴 月曜

午前八時*ミツ訪ハル八時半_困乙一訪問戸籍ニ関ルコトヲ問フ其事
實ハ現今実家ニ復帰*姓ヲ冒シ居ルヲ_困家ニ_困再養子並ニ同人結婚ノ
話ナリ○午后一時第五分院ニ往キ左ノ患者ニ面會ス

左股貫通創右膝銃創 安藤勢之助

脚氣 安藤幸次郎

右脛下部銃創 渡部寿一郎

引懸ケ赤十字材料庫ヲ一覽シ二時過帰宿○三時半岩崎信太郎來訪ス○七
時過熊野穂市大手町三丁目來訪○八時半ヨリ山本氏ト共ニ市中散歩十時
帰宿

同四日晴 火曜

午前八時堀書記官ヲ訪フ伊豫行不在買物ヲ為シテ九時帰宿○九時半山本
郡長ト共ニ小泉聯隊長ヲ豫備病院ニ訪ヒ面會十時帰宿病院行ノ車ハ別雇
ナリ五時半園山砲兵少尉ヲ訪レ不在ニ付直チニ帰宿川崎正彰來訪暫時談
話ノ後去ル○六時○村曹長齒ヲ金ニテ埋メ居ル男來訪ヒールヲ饗ス六時
半去ル○夜二入熊野ニ至リ刀劍ヲ見九時帰宿ス

同五日曇 水曜

外中原 伊藤元之助

修道館 山本市太郎

午前七時廿一聯隊ノ第二大隊出發ニ付字品ニ於テ見送り十時半帰宿同
所ニ於テ松_市市ノ軍人ニ面會セシカ前記伊藤元之助ハ戸籍ノ件ヲ依頼ス
トノ事又山本市太郎ハ修道館ニ傳言ヲ頼ムトノ事ナリシナリ○十一時三
谷平之助氏訪ハルヒールヲ饗ス十一時半帰ラル○七時加藤甚三郎來訪七
時半堀書記官來訪○今夕龜井龍太郎田中タケ川崎ユキ來訪○八時過散歩
九時帰宿

同六日晴 木曜日

午前八時半ヨリ宇品ニ於テ廿一聯ノ出征ヲ見送り午后一時旅團長ヲ見送り本船ボンベイ丸ニ至リ一時半上陸二時帰宅二時五十分出發帰途ニ就ク六時四十分上根ニ着同所投宿

一金五錢 途中車後押

一金五錢 砂糖

一金拾錢 按摩

一金三十五錢 上根宿料

一金二十錢 同茶代

同七日晴 金曜

午前六時十分上根ヲ發ス途中ニテ小憩十一時廿五分三次ニ着ス甲立ノ南ニ於テ平田町吉田氏ニ逢フ香川旅館ニテ昼飯正午三次ヲ發ス二度小憩午後七時半頓原ニ着喬松館ニ投ス

一金廿五錢 三次ニテ昼飯代

一金廿錢 同茶代

一金六錢 所々茶代

一金五十錢 頓原宿料

一金三十錢 同茶代

同八日晴 土曜

午前六時三十分頓原ヲ發ス途中兩度小憩午後一時四十分完道着三島屋ニテ昼飯二時乗船出帆三時廿分帰松

一金拾五錢 昼飯代

一金拾錢 右茶代

一金拾貳錢 處々茶代

一金廿三錢五厘 船賃

一金五圓 杯賃共

ノ

[0.235船賃]
0.09 船中
0.06 花代
0.10 上根花代
5 | 7.21 | 50
6 4

堀川町宮本

233
130
103

《一九〇五年・日露戦争終結後の広島出張》

一明治三十八年十月三日出發廣島出張

一金四十七圓七十錢

内訳

金拾九圓廿錢 車馬賃

金十二圓 日當十二日分

金十六圓五十錢 宿泊料十一日分

十月三日半晴 火曜

午前七時松江出發八時半完道着直チニ出車十時五十分三刀屋着内田方なべやニテ昼飯十二時三刀屋發ス掛合ニテ小憩午後六時頓原ニ着片岡ニ投宿

宿 一金廿三錢五厘 完道マテ舟賃

一金壹錢 船中

一金廿錢 三刀屋昼飯

一金拾錢 同茶代

一金五錢 掛合茶代

一金五十錢 頓原宿料

一金四十錢 同茶代

一金壹圓 車夫へ渡ス

同四日晴 水曜

午前七時頓原ヲ發ス赤名峠ニ於テ小憩午後一時三次着金川ニテ昼飯一時四十分三次發五時十分吉田着吉岡ニ投ス

一金三十錢 三次昼飯

一金二十錢 同茶代

一金三錢 途中茶代

一金四十錢 吉田宿料

一金三十錢 同茶代

一金十錢 下女へ

一金十五錢 あんま賃

同五日雨 木曜

午前七時三十分吉田ヲ發ス上根ニテ小憩十一時五十分可部ニ着高木方ニテ昼飯午後零時半可部ヲ發シ二時廿五分廣島ニ着猫屋町高橋慶之進方ニ投ス

一金六錢 上根ニテ雨紙

一金十錢 同所茶代

一金廿錢 可部昼飯

一金十錢 同茶代

一金三圓五十錢 車夫渡

同十日晴

計金七圓九拾三錢五厘

午後四時片岡事務官ヲ訪フ不在直子ニ帰宿ス夜ニ入り憲兵上木兵三島茂太郎八束郡出身片岡事務官志谷縣屬訪ハル明日ノ會議ハ明後七日ニ延期ノ旨通知ヲ受ク

同六日雨天 金曜

午前九時ヨリ豫備病院本院ヲ慰問シ第四十一聯隊補充大隊ヲ訪問矢島中佐清水少佐二面會白島分院ヲ慰問来海榮助二面會基町分院ヲ慰問シ十一時四十分帰宿ス午後一時廿分江波分院ヲ慰問二時帰宿ス○高橋助役ニ書狀ヲ發ス○祿太郎へ山陰新聞三日ヨリ五日マテ三葉ヲ發送ス○五時清水少佐來訪ヒールヲ饗ス五時四十分帰ラル○夜ニ入り富山少佐訪ハル○三島乙市來ル○片山事務官訪ハル

同七日 土曜

午前九時協議會ニ出席午後五時帰宿今朝岡小三郎氏訪ハル○夜ニ入り片岡事務官志谷縣屬來訪○猪股那賀郡長來着

同八日晴 日曜

午前八時ヨリ園山中尉清水少佐志津中佐矢島中佐ヲ訪問シ九時協議會ニ出席六時帰宿○夜ニ入り吉村中尉繁夫訪ハル高橋助役、西島仲之助、留守へ書狀ヲ發ス

一金十五錢 弁當

一金三錢 茶

同九日曇 月曜

午前八時廿分ヨリ三輪秀一香川大尉師團司令部志津參謀長經理部富山少佐川喜多參謀ヲ歴訪竹屋町分院皆実分院千田町分院ヲ慰問シ真鍋留守師團長伴市長ヲ訪問十一時廿分帰宿ス午後二時吉村中尉第六十六班救護ヲ訪問シ散步シ三時帰宿○夜ニ入り散步八時帰宿○吉村繁夫中尉ノ銃卒來

訪○三島乙一来訪ス

一金四圓五十九錢七厘

諸買物

同十日晴 火曜

午前八時五十分廣島發吳ニ行キ海軍病院ヲ慰問シ海岸ニ於テ港内ヲ見ル軍艦ニテハ春日浅間ノ二艦分□ニハ石見艦外二艦アリ停車場ニテ昼飯ヲ喫ス

造船所ニ於テ義勇艦隊ノ艦ヲ新造中

十二時廿分發ニテ帰廣ス

一金九十^八錢 往復キ車

一金四十五錢 人力車

一金卅五錢 昼飯

一金拾八錢 停車場ヨリ宿込車

右^吳鼎行入費

一金五円六十錢

廣島宿料五泊二昼

一金九十一錢 來客費

一金參拾錢 人力車

一金老円五十錢 人力車

午後三時五十分廣島ヲ發シ七時十五分上根ニ着同所一泊

一金六錢 上根坂車引上ケ

一金四十錢 上根宿料

一金廿錢 茶代

同十一日晴 水曜

午前七時十分上根ヲ發ス途中一小憩午後十二時半三次ニ着一二三館ニテ昼飯福本一時廿五分三次發布野^田赤名嶺ニ於テ小憩六時廿五分赤名着沢田ニ投ス

一金貳拾錢 三次昼飯

一金拾五錢 右茶代

一金八錢 途中茶代

一金四十五錢 赤名泊料

一金四十錢 茶代

一金十五錢 アンマ

同十二日晴 木曜

午前七時廿分赤名ヲ發ス頓原ニ於テ小憩午后十二時廿五分掛合ニ着岩田屋ニ於テ昼飯佐藤警部長ヲ訪ヒ一時廿五分掛合發三刀屋ニ於テ経木真田傳習所ニ立寄ル工女七十餘名ト云経木製造二人アリ午后六時十分完道ニ着^{川島}鼎屋ニ投ス

一金貳拾錢 掛合昼飯

一金拾錢 同茶代

一金拾錢 途中昼

一金四十錢 完道宿料

一金三十錢 同茶代

一金四円五十錢 車夫へ

同十三日晴 金曜

午前七時五十分完道發時

金廿四錢五り 船賃並通行料

金十錢 船中

午前九時廿分帰宅ス

《一九〇五年・日露戦争終結後の浜田出張》

明治三十八年十一月廿六日出發濱田出張

一金三十一円八十銭 旅

内

金六圓 通□ヨ備

差引

金貳拾五圓八十銭

壹圓 船中車夫

三圓 □□へ仮渡

廿六日晴 日曜

午前七時松江發^九十時庄原着十二時十分小田着錦織榮二郎方ニ於テ昼飯

一時小田發三時四時^マ分大田ニ着磯竹屋ニ投ス

同廿七日半晴 月曜

午前七時大田發十時五十分大家ニ着昼飯十一時五十分大家發午后三時江

津ニ着花開花亭ニ投ス

廿八日半晴 火曜

午前七時半江津發午前十時半濱田着新町佐々木方□山投宿直チニ聯隊司

令郡都役所訪問山本店ニ於テ昼飯午后補充大隊里見山田三谷陶山各將校

ヲ歴訪シ五時帰宿矢島昌秋訪ハル

廿九日半晴 水

午前七時半歓迎ノ為メ瀬戸ヶ島ニ往ク風波ノ為メ入船セス帰宿片岡其他

訪問午后勝部訪問

壹圓 車夫渡

同卅日半晴 木曜

午前十一時軍隊歓迎ノ為メ瀬戸ヶ島へ出張午後一時半ヨリ上陸三時半終

ル郡役所前ニ整列之ヲ迎フ五時着六時郡会議事所ニ於テ歓迎宴会アリ八時退散帰宿

十二月一日晴 金

午前九時前ヨリ聯隊本部以下中隊長舎ヲ訪問ス終テ富田判事三好檢事瀧

本判事山本三谷二中尉千葉弁護士袖山警部ヲ訪問十時半帰宿午後二時聯

隊旗還納式ニ列シ五時ヨリ將校集会所ニ於テ宴会七時帰宿

同二日半晴 土曜

午前七時濱田發浅利ニテ昼飯午后六時大森ニ着山内旅館ニ於テ投宿

同三日半晴 日曜

午前六時半大森發小田ニテ昼飯午後三時半平田ニ着羽二重工場ヲ觀ル

傳習機 二十八臺

出シ機 三百臺

十一月製造高 五百二十反

機業職員ノ言フ所ニ依レハ平田附近ニ於テ製糸羽二重業ノ為メ従業ノ工

女殆ント七百名ナリト又松江新材木山口出張所跡ヘモ出シ機アリト

五時警察分署前梶谷ニ投宿此日二時ヨリ三時半迄雨降ル

口田儀旅館

亀屋

川上利三郎

同四日晴 月曜

午前七時半平田發九時過帰宅

《一九〇六年・松平直亮伯爵病氣見舞いのため沼津出張》

明治三十九年二月七日

松江發松平伯御見舞トシテ沼津行

七日雨 水曜日

午后三時三十分松江發五時半境着香川ニ投ス

一金廿錢五り 船賃

一金壹錢 船中

一七十五錢 宿料

一壹圓 茶代

一二十錢 下女

一金貳圓五十錢

敦賀迄

一金十三錢 本船込通船賃

一金十錢 敦賀上陸賃

同八日半晴 木曜日

午後一時本船スピール丸ニ乗船二時三十分出帆海上波穩カナリ四時頃ヨ

リ船稍動揺ス

同九日風雨 金曜日

午前七時敦賀入港八時上陸ステーション前坂本屋ニ投ス

一金三十錢 船中ホイイニ

一金十二錢 人力車賃

一金五圓三十一錢 沼津迄キシヤ賃

一金廿五錢 昼飯

一金廿錢 茶代

十二時敦賀發午後一時米原着休憩みつゝや

一金廿八錢 夜食

一金二十錢 茶代

一金四錢 細引

一金十錢 下女へ

午後十時米原發

同十日晴 土曜日

午前五時四十分沼津着枚本和平方ニ投ス八時半臥世古方ニ伯爵御見舞申

上ク先ツ御櫛方世古方ニ宿泊之事ト為ル

一金三十五錢 枚本朝飯

一金五拾錢 茶代

一金拾錢 下女へ

一金拾貳錢 車賃

一金六十五錢 牛臥往復往車賃

一金壹圓 御見舞御看料

一金拾圓 全上松江市ヨリ

同十一日曜 日曜

記スヘキ事ナシ昨日東京ヨリ「テツシウキインツウクハセリ」トノ電報アリタレトモ何人ノ發電ナルヤ不明ニ付岡本向坂恒松三氏ノ内ナラント三氏ニ同文ニテ謝礼ノ電報ヲ發ス

一金四拾五錢 電報料

○大根漬方

抜取り直チニ立木ニ掛ケテ干スコト又大豆ヲ炒テ碾イタ粉ヲ一樽ニ

五六合混テ漬ルコト

十二日晴 月曜

午前御用邸邊迄散歩午後沼津ニ出テ斬髮ス

一金拾錢 斬髮

同十三日晴 火曜日

記事事ナシ

同十四日晴 水曜日

午前九時伯爵御病間ニ伺候御容体益ス重キヲ感ス午後二時山口銳之助氏ヲ伴ヒ海邊ヨリ大山別邸内散歩

△物質不減勢力恒存

同十五日半晴 木曜日

午前九時過より渡部氏ト共ニ沼津ニ出テ左ノ電報ヲ發ス

ヨウスニチニチワルシ

十一時過帰宿ス午後四時高橋へ書状ヲ發ス六時松江市参事会ヨリ御見舞

ノ電報到達直チニ安井家令ニ通ス

一金三十銭 電報料

一金二十銭 紙

一金二十四銭 郵券八枚

同十六日晴 金曜日

一午前九時高橋ノ書状到達午后岡本氏ヨリ書状到達直チニ返書ヲ發ス

同十七日晴 土曜日

午前十時高橋へ書状ヲ發ス

○報知新聞二月十七日發福井市羽二重市宮ノ事記事アリ

同十八日晴 日曜日

午前九時ヨリ沼津ニ出テ左ノ電報ヲ發ス

ヨウスマスマスワルシ

午後二時ヨリ我入道浦ニ遊ヒ松風館ニ於テ喫茶ス昨日ヨリ胃痛ノ気味アリ

一金二十銭 電報

一金五銭 細引

一金拾貳錢五リ 茶代

同十九日晴 月曜日

前夜縣會議員當撰ノ電報授領午前高橋助役小川岡本ニ書状ヲ發ス午後二時ヨリ青山泰石氏ノ心配ニテ三島ニ在ル小松宮様御用邸拜觀七時帰宿ス

一金三十一錢二リ 高車代

留守へ書状高橋千代司

同二十日雨 火曜日

午后二時電報ヲ發ス

マゾオカワリナシ

同廿一日雨 水曜日

午前十一時伊藤市書記ニ書状ヲ發ス

○鐘詰ニ地方ノ景色等ヲ貼リテ廣告スル事

一金廿二錢五リ 郵券はかき

十金

同廿二日半晴 木曜日

午前十時御邸並津山隊長様ニ御暇乞ヲ為ス

一津山夫人八百子様ヨリ大橋へ傳言

一永井氏ヨリ岡崎田村□三兩氏ニ傳言

一金八圓十九銭 岡山マテ

一金廿五銭 電報

一金壹圓 紙

一金二円 茶代

午後五時三十分沼津發

一金三十二銭 キ車中

同廿三日雨 金曜日

午前八時三十五分神戸着吉田ニテ休同十時神戸發午後二時五十九分岡山
着同三時五十分岡山發六時津山着千切屋事市瀬方ニ投ス

一金五十銭 神戸茶代

一金十五銭 弁當

一金壹圓十銭 キ車賃

一金十五銭 アンマ

一金八銭 人力車

一金七十銭 津山宿料

一金五十銭 圃茶代

一金十銭 下女

同廿四日半晴 土曜

午前六時津山發午後一時二十分美甘着昼飯二時發

一金七十七銭 久世込人力車

一金五銭 途中

一金廿銭 電報

一金十五銭 郵券

一金十七銭 昼飯

一金九十銭 新庄込人力

一金七十銭 鼻引

一金五銭 新庄茶代

一金壹圓五十銭 駕籠

午後五時五十分板井原ニ着鉄間屋ニ投ス

一金五十銭 宿料

一金三十銭 茶代

一金五銭 下女

同廿五日曇 日曜

午前六時板井原發十一時過米子着昼飯

一金壹圓六十銭 車賃

一金五銭 途中

一金十八銭 昼飯

一金五銭 茶代

一金廿七銭五り 船賃

十二時米子發二時半帰宅

壹圓五十銭 シヤツ

三圓五十銭 帽

以上

《一九〇六年・招魂祭のため浜田出張》

明治三十九年二月廿六日出發濱田出張

金貳拾九圓八拾銭

旅費

廿六日雨 月曜日

午后零時三十分松江發二時三十分庄原着六時三十分口田儀着上野屋ニ投

ス

一金廿六銭五り 船賃

一金十三銭 按摩

一金四十銭 宿料

一金三十銭 茶代

同廿七日雨 火曜

午前七時口田儀發午後一時廿分大家着昼飯一時四十分大家發四時五十分

江津着開花亭ニ投ス

一金五十銭 鼻引

一金五十五 宿料

一金三十五 茶代

下女共

○一金壹円 車夫渡

○一金廿銭 昼飯

同廿八日雨 水曜

午前七時半發十一時濱田着佐々木ニ投ス午後一時半ヨリ各將校聯隊区司

令部ヲ訪問シ二時半帰宿ス

一金壹円 招魂祭へ供物

一金壹円半 歡迎會費

三月一日半晴 木曜

午前七時四十分招魂祭場ニ臨九時半開始十一時廿分終ル暫時休正午ヨリ

午餐ノ饗ヲ受ケ管内觀覽二時半帰宿ス

同二日晴 金曜

午前八時招魂祭ニ臨時十時前開始十一時終ル正午過ヨリ將校集會所ニ於

テ佐藤中佐宴會ニ臨席シ終テ餘興ヲ見三時帰宿ス更ニ山本岡野両氏ト共

ニ散歩五時半帰宿夜ニ入り和田吉人氏來訪経木眞田ノ談アリ大田□□二

月二千五百反製造ス云々神戸ニ縣廳ヨリ属官派出ノ事野沢組ニ懸合ノ事

等アリ

同三日雨 土曜日

午前十時ヨリ高等女学校ニ於テ縣知事訓示アリ

午前十時女学校ニ參集知事ヨリ国庫債券等ニ付訓示アリ十二時帰宿午後

四時ヨリ歡迎會ニ臨ミ九時帰宿ス

一金壹圓 里見へ送別

○一金壹圓 車夫渡

一金四圓卅銭 宿料

一金貳圓 茶代

一金壹圓 下女

一金四十三銭 帽子

同四日半晴 土曜日

午前九時半出發午後一時江津ニ着昼飯二時半出發七時半大家ニ着投宿山

根 一金三十銭 昼飯

一金十銭 茶代

○一金壹円 車夫

一金四十銭 宿料

一金廿五銭 茶代

同五日雨雪 月曜

午前七時發十時半大田着磯竹屋昼飯十一時半出發午後七時直江着学頭屋

ニ投ス

一金四十銭 宿料

一金五十銭 茶代

○一金五圓 車夫

○一金八拾銭 全上濱田分

同六日 火曜日

午前七時發午後一時帰松

(付記) 本稿は、山陰研究センターの山陰研究プロジェクト「〇八〇三

初代松江市長・福岡世徳文書(四) (福岡世徳文書研究会)

二〇〇八―二〇一〇年 初代松江市長・福岡世徳文書の解読・
翻刻・研究と『初代松江市長・福岡世徳―史料と研究』(仮題)
の刊行」(研究代表者・竹永三男) による成果の一部である。

Works of Fukuoka Tsukinori(4) : The first mayor of Matsue

Research Project on Works of Fukuoka Tsukinori

[Abstract]

FUKUOKA Tsukinori (1848-1927), the first Mayor of Matsue, devoted himself to local development during his twenty-two-year term of office. We can clearly perceive his obscure but considerable contribution to Matsue through one of his notebooks.

